

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1570600435		
法人名	社会福祉法人 御幸会		
事業所名	グループホームしばた		
所在地	新潟県新発田市下中山246番1 (電話) 0254-31-2100		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	8月22日

【情報提供票より】(20年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6人
職員数	6人	常勤 6人、非常勤 1人、常勤換算 5.87人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階	建ての	1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	9,000~ 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	190 円	昼食	250 円
	夕食	260 円	おやつ	100 円
	または1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (20年7月現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2		2名	
要介護3	0名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		1名	
年齢	平均 84歳	最低	70歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新潟県立新発田病院、竹内病院、佐藤歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然豊かな緑に囲まれた場所に位置し、利用者は四季を感じ、楽しみながら生活を送っている。利用者は6名という少人数であり、理念にもあるように「その人らしい生活」が充実するよう、個々に合わせた支援を行っている。特に日課は設けず、職員は利用者の希望にそえるよう工夫しながら対応している。畑仕事や裁縫といったホームでの楽しみごとのほか、近くの神社の参拝に出かけたり、喫茶店に出かけたりと、外出の機会も多く設けている。地元の直売所を利用したり、運営推進会議で自治会と交流を図るなど、地域との交流にも努めている。職員間の関係も非常に良く、密なチームワークを図り、利用者も含めて、あたたかく家庭的な雰囲気が作り出されている。また、特別養護老人ホームが併設しており、緊急時や災害時の協力体制、栄養士や看護師から指導やアドバイスが受けられる体制がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果をふまえ、改善に取り組んだ。「介護計画への入居者・家族の意見の反映」については、日頃の会話や様子から利用者の希望を引き出すよう努め、また、家族にも面会時に要望を聞いたり、日頃の様子を伝えながらともに介護計画について考えてもらっている。「家族の意見や要望を引き出す働きかけ」としては、広報紙発行時に、要望を記入する用紙を同封し、意見を引き出せるよう働きかけている。「地域との交流」では、毎週日曜日に地元の直売所へ出かけることで、顔なじみの関係づくりができた。運営推進会議に自治会長も招き、情報や意見交換をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解し、職員全員で意見交換しながら自己評価や外部評価の改善項目への取り組みを行っている。評価を自分たちの振り返りに活用し、互いの意見を確認しながら、チームとして取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を通じ、自治会長との連携ができ、地域との窓口を持つことができた。地域の環境整備活動等の情報を得て、今後、参加を検討している。活動状況や評価結果についても報告し、意見をもらって運営に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時やホーム便りで、利用者の日頃の様子を家族に伝えている。健康状態についても随時連絡している。金銭管理報告は毎月行い、残金と出納帳簿を家族に確認してもらっている。広報発行時には、日頃の様子を伝えるだけでなく、家族の要望を書いてもらう用紙を同封し、要望・意見を寄せてもらえるよう働きかけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の祭りに参加したり、毎週日曜の朝には地元の直売所に出かけて交流している。スーパーや喫茶店、理容店等を利用し、関係づくりに努めている。また、併設特別養護老人ホームと合同の夏祭りに、地域の方を招いている。日常的に地域の方からホームに気軽に立ち寄ってもらえるような交流はまだ途上である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念以外に、グループホーム独自の理念を職員全員で話し合っ て作成した。理念のもと、地域の特性である豊かな自然の中で、その 人らしく、のんびり、ゆったり生活してもらえよう支援している。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時や日々の業務の中で、理念について話し合い、確認を 行っている。理念にある「その人らしい生活」を支援するため、関わり がマンネリにならないよう、常に情報収集して工夫している。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に した理念を、家族や地域の人々に理解してもらえ るように取り組んでいる	ホーム便りや運営推進会議で理念を伝えている。また、地域行事や 日々の生活を通じて、地域の方にも伝わるよう努めている。家族には 面会時にも説明している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、 老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交 流することに努めている	地元の祭りに参加したり、毎週日曜の朝には地元の直売所に出かけ て交流している。スーパーや喫茶店、理容店等を利用し、関係づくりに 努めている。また、併設特別養護老人ホームと合同の夏祭りに、地 域の方を招いている。		地域に出かけ、関係づくりに努めているが、ホームに気軽に 立ち寄ってもらえるような交流はまだ途上である。交流 を持っている直売所の方に、直接ホームに品物を届けて もらうなど、新たなきっかけを探り、よりいっそう交流が進む ことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実 施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に 取り組んでいる	評価の意義を理解し、互いの意見を確認しながらチームとして評価に 取り組み、自分たちの振り返りに活用している。外部評価結果につい ても、職員全員で意見交換しながら改善項目への取り組みを行って いる。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価へ の取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、 そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、自治会長との連携ができ、地域との窓口を持 つことができた。地域の環境整備活動等の情報を得て、今後、参加を 検討している。活動状況や評価結果についても報告し、意見をもらっ て運営に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市社会福祉協議会のボランティアフェスティバルに参加し、利用者の作品を出品したり、ホームのPRの機会としている。また、市の介護相談員に来てもらっている。		市の担当者とも日頃から連携を図り、サービスの質の向上にむけて共に取り組む関係づくりに期待したい。
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、適宜見直しをすると共に、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を設け、職員の理解浸透を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時やホーム便りで、利用者の日頃の様子を家族に伝えている。健康状態についても随時連絡している。金銭管理報告は毎月行い、残金と出納帳簿を家族に確認してもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報発行時には、日頃の様子を伝えるだけでなく、家族の要望を書いてもらう用紙を同封し、要望・意見を寄せてもらえるよう働きかけている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員全員が参加して定例ミーティングを行っている。会議での意見や、日頃の仕事の中で出される意見はホームの運営や利用者のケアに活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人本部も馴染みの関係の大切さを理解しており、極力異動は行わない体制である。やむを得ず異動・離職があった際は、マンツーマンでの引き継ぎや、夜勤を一緒に行うなどして、ケアの継続性に配慮し、利用者への影響を軽減するよう努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	身体拘束、感染予防等必要なマニュアルが整備されている。ノロウィルス対策や緊急時対応など、特に確認が必要なものは掲示して活用している。また、適宜見直しもしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、それに沿って、外部研修に順次参加している。職員の参加希望に応じ、勤務日程等も考慮している。研修参加後は報告書を作成して回覧するとともに、内容について質疑応答しながら情報を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域の同業者との交流の機会や交換研修を行い、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間をしっかり確保し、時間に縛られずにその日の流れに合わせた業務の組み立てなど、職員のストレス軽減に配慮している。また、職員同士がお互いオープンに話し合ったり、相談し合い、ストレスをためないよう助け合っており、職員間の関係は良好である。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームを見学してもらい、様子を知ってもらう機会を設けている。利用後は、本人が馴染めるまでの間、職員が他利用者との仲立ちをするなど、丁寧な対応を行っている。家族にも多く面会に来てもらえるよう働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事準備や掃除、洗濯など、本人の得意なことを探り、生活の中に活かし、力を発揮してもらう場面を意識して作っている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に協力いただきたいことをあらかじめ説明し、本人が不安な時などは家族に電話で対応してもらったり、かかりつけ医以外の医療機関への受診は家族から付き添ってもらするなど協力してもらっている。本人の日頃の様子について、面会時やホーム便り等で家族と情報共有している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望については、日々の生活の中で引き出せるよう関わっている。把握した情報は、記録や口頭にて職員間で情報共有し、ケアに活かしている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から、これまでの生活歴について情報収集している。また、主介護者以外の家族からも聞き取るよう努め、情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「おしゃれをさせたい」といった家族の希望を取り入れたり、利用者の希望や生活の様子を踏まえ、職員間で話し合っ介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、また、状態の変化に応じて随時、介護計画の見直しをしている。居室担当職員の意見をもとに、他職員の意見も要約し、家族へも相談しながら新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前の生活を継続できるよう、墓参りやゆかりの場所などへの個別の外出等、利用者の希望やニーズに応じた支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には定期的に受診し、また、往診もしてもらえる。電話での相談にもものってもらっている。併設特別養護老人ホームの看護師にも相談することができ、医療面で日ごろから協力を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状態変化が見られたら、早めに家族と相談している。ホームとしては、本人の状況や職員体制等を勘案し、その中でできる支援を行いたいと考えている。主治医の意見も聞きながら、ホームでの生活が難しい場合は他施設への移行も選択できるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の誇りやプライバシーを損ねるような職員の声かけや態度はなく、ていねいな対応がされている。個人の記録等は決められた場所に保管し、個人情報保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを固定してしまうことはなく、利用者のその日の希望に沿って過ごし方を決め、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人本部から、献立表と使い切るだけの食材が用意されるが、味付けやアレンジは自由に行っている。また、スーパーに買い物に出かけ、ホーム独自の献立にする日もある。利用者と職員と一緒に調理や後片付けを行い、食事と一緒に楽しんでいる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。本人の状態を見て、できるだけ普通の下着で対応し、紙パンツから普通の下着へと排泄状況が改善した例もある。排泄の有無はさりげなく確認し、本人の誇りを損ねず、また、気持ちよく過ごせるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午前・午後、利用者の希望に沿って支援している。入浴剤を使用するなど、気分を変えて入浴を楽しめるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植物の水やり、畑仕事、針仕事、書道、手芸、家事など、本人の希望や生活歴に沿って役割や楽しみごとを持てるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や理容、神社へのお参り、喫茶店など、日常的に外出できるよう支援している。また、個別での外出、大勢での外出をそれぞれ計画し、実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関するマニュアルが整備されており、随時確認している。職員は身体拘束について理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中は極力玄関の施錠はせず、センサーを設置して人の出入りがわかるようにしているが、職員が1名になる時間帯等が生じる場合があり、やむを得ず施錠を行うことがある。居室の吐き出し窓からテラスへはいつでも自由に入りできる。		人家が少なく、国道や山林に面した立地であり、利用者の安全確保の面からやむを得ず施錠している状況もあり、難しい面もあるが、安全面にも配慮した上で、施錠しないケアに向けて検討と工夫を続けてほしい。
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット報告、事故報告を活用し、再発防止策を検討し、個々の利用者に応じた事故防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	救急法について学び、毎月のミーティングで確認している。また、法人の看護師から年数回、急変時の対応について指導も受けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年2回、併設の特別養護老人ホームとともに防災訓練を行っている。災害時対応マニュアル、連絡体制も整備され、水、食料品等の備蓄もしている。地域との協力体制の構築はまだこれからの段階である。		いざという時、ホーム職員だけでは利用者を安全に避難させることは難しい場合がある。運営推進会議等を通じて、地域との協力体制づくりについて話し合い、進めていくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事量をチェックし、把握している。水分摂取については、利用者がいつでも飲めるようにお茶とお湯を用意したり、夜間の水分摂取用にペットボトルを用意するなどし、1日を通じて十分な水分摂取ができるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コタツや季節の装飾、花などで、居心地良く、季節感のある空間づくりがなされている。必要個所への手すり設置や、車イス用のトイレなど、利用者の身体状態が変化しても安心して過ごせる設備がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、写真、テレビ等、利用者それぞれの馴染みの物品が持ち込まれ、居心地の良い居室づくりがなされている。		